

ATAC第10回講演会を開催しました

～中小企業の秘策を一挙公開～

去る3月7日大阪科学技術センター8F中ホールにて、ATAC第10回講演会を開催しました。たくさんの方々にご参加頂き有意義な会とすることができましたので、感謝の念と共にご報告致します。

●はじめに梶原運営委員長ご挨拶

10回目を迎えた今回のひとつめのテーマである中小企業における研究開発の取組みの話は、クライアント様のお許しを得て実例を挙げてお話させて頂くことができました。迫真に迫る話をお聞き頂けると思います。またATACでは東日本大震災の復興支援にも取り組んでおりますが、その中でやはりBCPの大切さを痛感しています。関西では阪神大震災の経験があるにも関わらず、BCPへの取組みが遅れているのではないかと危惧しておりますが、本日の講演をお聞き頂いて、今一度自社のBCPについて考えて頂く機会になればと思います。

また、特別講演として、約3年前のATAC社長懇話会でもご講演頂きました、大阪から世界に誇るハードロック工業株式会社の若林社長にもご講演頂きます。交流会を含め親交を深めて頂き、有意義な会になることを願います。

●「中小企業の技術開発への取組み －ATACコンサルティング事例から－」

池田 隆果

中小企業では資金やリソースが常に課題となる技術開発を、いかに進めるかについて、クライアント様の許可を得て、2社4事例の具体的な取組みを発表させて頂きました。

1社目の株式会社吉井商店では日本の伝統技術である金箔の製造工程を画期的な最新技術の導入により一気に合理化した例と、バクテリアセルロースという新素材を活かしたあぶらとり紙の開発の話。2社目は富士高周波株式会社のレーザー焼入れとレーザー

クラディング技術の開発についてです。新技術開発・導入を検討開始する際の文献調査、特許調査支援、開発手法・解析方法の指導、川下企業、大学、研究機関とのコンタクトの支援、そして国が実施する補助金の申請支援など、各ステップに応じた支援を紹介しました。ご依頼企業様の問題解決への決意さえあれば、どこまでもとことんご協力致します。



●「まだ間に合います！今すぐ取り組もう！」

事業継続計画(BCP)」 田村 順造

昨年、BCPがISO化され、日本でもJIS化が進められています。また2006年には、会社法に危機管理規定が制定されました。コストや手間を理由にBCPを避け続ける訳には行かない状況になりつつあります。しかしせっかく取り組むのであれば、役に立つ、生きたBCPにしなくては意味がありません。BCPというものは個々の企業それぞれに応じたカスタムである必要があり、更に一度作成したからと言って安心して放置しては意味がない生き物であることを認識しなければいけません。そして事業、顧客の保全、従業員とその家族の命と生活を考えながらBCPを作成していくプロセスにこそ重要な意味があるのです。市販のマニュアル本や一般のチェックリストをコピーするだけではいざと言うときに役に立つBCPとは言えません。